**大森宮となまずの伝説**

福津市の西郷の地区にある大森宮の特徴は、なまずの像がいくつかあることです。これらの像は、大森宮と地域の民話とのつながりを示しています。この民話は、西郷周辺の土地を所有していた武士の河津興光 (生没年不詳) がなまずに助けられた、というものです。河津は、有力な大内氏の家臣でした。大内氏は、12～14世紀に、西日本の広い地域を支配していました。大内氏の命令により、河津は1511年に京都で船岡山合戦に加わり、重傷を負いました。彼が瀕死の状態で水辺に横たわっていると、大なまずが現れました。大なまずは、水の上を渡って自軍がいるところまで彼を運んでくれ、彼はそこで手当てを受けることができました。

河津興光は、氏神がなまずとして現れて自分を助けてくれた、と考えました。彼は西郷に戻ると、村人たちがなまずを食べるのを禁じました。なまずはこの地域の象徴になり、この地域の標識にはなまずの絵が入っています。

*大森宮のなまず像*

正面の鳥居の前に、銅製の大きななまず像があります。拝殿の前になまず像がもう2つあり、神社で通常見られる狛犬に代わって守り神となっています。片方のなまず像は口を開け、もう片方のなまず像は口を閉じています。大森宮の本殿内にある絵は、上記の伝説を描いたものです。河津興光が武士の鎧を着て黒い大なまずに乗り、水の上を渡っています。

この神社は緑濃い庭の中にあり、庭には池と赤い橋があります。神社の近くには、「」という大きな公園があります。この公園内には伝統的な形式の庭園があり、その池にはなまずがたくさん泳いでいます。